



『新選太閤記』の一場面。左にたつ信繁(幸村)と昌幸(中央)の後ろに穴山小助と海野六郎がひかえている。

第一次上田合戦

天正13年(1585)8月、7000人余の徳川軍が上田城へと攻め入った。昌幸が沼田領引渡しを拒否し、家康と断交したためである。対する真田軍は2000人足らず。しかし昌幸は巧みな戦術で徳川軍を撃退してしまう。神川合戦ともよばれるこの戦いが、真田氏と上田城の名を天下に広く知らしめた。

第二次上田合戦

昌幸父子が相分かれて戦うことになった関ヶ原合戦の前哨戦。慶長5年(1600)9月、西軍(石田方)についた昌幸と信繁(幸村)は上田城にたてこもり、中仙道を西進する徳川秀忠軍と戦った。3万8000人の徳川軍に対し、真田軍はわずかに2500人。軍事力の差をものともせず、またしても徳川軍に大きな損害を与えた。

上田城 略年表

- 天文10年(1541) 「海野野の合戦」に敗れた真田幸隆は、上田の地を追われる。
- 天文16年(1547) 幸隆の三男・昌幸が誕生。
- 天文20年(1551) 幸隆、砥石城を攻略し、再び上田の地へ。
- 天正 3年(1575) 「長篠の戦い」で二人の兄が戦死。昌幸が真田家を継ぐ。
- 天正11年(1583) 昌幸、上田城を築城。
- 天正13年(1585) **第一次上田合戦。**
- 慶長 5年(1600) **第二次上田合戦。**「関ヶ原の合戦」後、上田城が徳川方に接收される。
- 慶長 6年(1601) 徳川軍により上田城破却。
その後、昌幸の長男・信之に上田領が引き渡される。
- 元和 8年(1622) 信之、松代へ移封。小諸より仙石忠政入封。
- 寛永 3年(1626) 忠政、上田城修築工事に着手。
- 宝永 3年(1706) 仙石政明、但馬国(兵庫県)出石の松平忠周と所領交代となる。
- 明治 4年(1871) 廃藩後、国に接收され東京鎮台第二分営の管理下となる。
- 明治 7年(1874) 前年の分営廃止に伴い、上田城が民間に払い下げとなり廃城。
- 明治11年(1878) 櫓2基が太郎山麓の上田遊廓に移建される。
- 明治13年(1880) 本丸跡を公園にしよとの声が起こる。
- 明治29年(1896) 公園として体裁が整う。
- 昭和 4年(1929) 本丸に残っていた西櫓を徴古館(博物館)として一般公開。
- 昭和 9年(1934) 本丸と二の丸が国の史跡に指定される。
- 昭和17年(1942) 上田城趾保存会により櫓2基が買い戻される。
- 昭和24年(1949) 南櫓、北櫓が落成。
- 昭和34年(1959) 本丸の櫓3基が県宝に指定される。
- 昭和56年(1981) 櫓3基の修復工事が始まる(1987年に完了)。
二の丸堀跡にけやき並木遊歩道が完成。
- 平成 6年(1994) 本丸東虎口櫓門の復元。



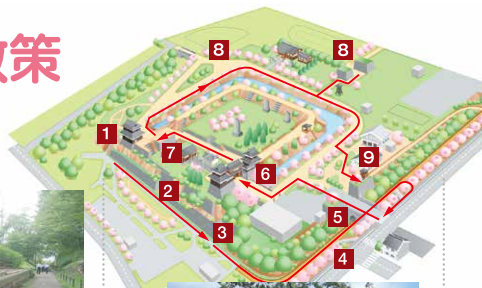
払い下げが進む本丸東虎口(明治11年頃と推定)



六連銭旗 (上田市立博物館所蔵)

上田城跡公園を楽しく散策

園内には、実は見どころが盛りだくさん。ゆっくりと散策をお楽しみください。



1 上田泥流層(上)と河床礫層
尼ヶ淵の要害をつくる特徴的な地層です。



2 眞田神社下の算木積み
崖面に古い算木積みを用いた石垣が埋まっています。なぜここに石垣が積まれたのかは上田城の謎のひとつ。



3 堀石垣の水抜き穴(尼ヶ淵側)
石垣に謎の穴が…。現在は空堀ですが、かつては水堀だったのかもしれませんが。



4 二の丸堀のプラットホーム跡
昭和2年から同47年までけやき並木遊歩道には電車が通っていました。二の丸橋の下には公園前駅(旧公会堂下駅)がありました。



5 二の丸橋標柱
顔文字のように見えますが、何を表現しているのでしょうか?
正解は…「2のマルハシ(二の丸橋)」。読めましたか?



6 南櫓・北櫓
明治11年までに移築され遊郭として利用されていましたが、昭和24年に現在の位置に復元されました。(写真は遊郭にあった当時のものです。)



7 西虎口櫓門跡
この凹(へこ)みは何でしょう?
これは、櫓の梁を固定した凹みで、西虎口櫓門が存在していた証拠のひとつ。



8 百間堀(野球場と陸上競技場)
昭和2年、江戸時代に大きな堀だった場所に、地形を活かした運動場ができました。ふたつの施設は近代遺産としても知られています。



9 平和の鐘
昔は、上田城下町の人々に時を知らせる「時鐘」として活躍していました。昭和9年、現在地に移築されました。

上田の観光情報は
こちら



うえだトリップ
なび

武将隊の
出陣予定は
こちら



「おもてなし武将隊」が城内のガイドや記念写真の撮影にも気軽に応じています。撮影の合い言葉は、「さなだっ、じゅうゆうっ!!」

四百有余年の歴史

上田城

真田氏から今に伝わる

上田城跡公園
ガイドマップ





真田父子伏密談図
(上田市立博物館所蔵)

上田城は天正11年(1583)、真田昌幸によって築かれた平城で、上田盆地のほぼ中央に位置しています。堀と土塁で囲まれ、虎口(出入口)に石垣を使った簡素な城ですが、第一次、第二次上田合戦で徳川の軍を撃退し、天下にその名を轟かせました。数ある城郭のなかで、2度もの実戦経験をもち、輝かしい戦果をあげた城は、全国でも他に例はありません。

しかし、上田城は関ヶ原の合戦後に破却され、藩主であった真田信之も松代へ移封となりました。その後、小諸から入封した仙石氏により城は再興され、近世後半には松平氏の居城となります。

幕末には本丸に櫓門2基、櫓7基がありましたが、現在は櫓3基と櫓門1基をみる事ができます。また、園内には石垣や土塁が至る所に残されています。

真田氏からはじまり、築城から400有余年。上田城は今もなお、訪れる人々を魅了しています。桜や新緑、紅葉など、美しい四季の移ろいととも、戦国ロマンあふれる園内で、歴史探訪をぜひお楽しみください。

上田城 案内

見どころ

歴代上田城主

初代 真田昌幸 天正11年(1583~1600)	七代 松平忠愛 享保13年(1728~1749)
二代 真田信之 慶長6年(1601~1622)	八代 松平忠順 寛延2年(1749~1783)
三代 仙石忠政 元和8年(1622~1628)	九代 松平忠清 天明3年(1783~1812)
四代 仙石政俊 寛永5年(1628~1669)	十代 松平忠学 文化9年(1812~1830)
五代 仙石政明 寛文9年(1669~1706)	十一代 松平忠優(忠固) 天保元年(1830~1859)
六代 松平忠周 宝永3年(1706~1728)	十二代 松平忠礼 安政6年~明治2年(1859~1869)



堀と土塁(土居)
上田城の堀は素掘り、掘りあげた土をその内側へ堤状に積み上げて土塁としている。



西櫓(県宝)
尼ヶ淵の河岸段丘上に築かれた本丸隅櫓。外壁は板葺(下見板)とし、その上から軒の部分までを塗籠としている。これは寒冷地の城に多くみられ、初期城郭建築の様式ともいわれる。また、格子窓に突き上げ戸がついた「武者窓」や、矢や鉄砲を放つための小窓「矢狭間」「鉄砲狭間」も設けられている。



真田井戸
本丸唯一の井戸で、直径2m、深さは16.5mに達する。この井戸には抜け穴があり、城北の太郎山麓の砦や上田藩主居館に通じていたという伝説がある。

- 凡例
- トイレ
 - 身障者利用可
 - 駐車場(有料)
 - 駐車場
 - カフェ
 - おみやげ処
 - 赤ちゃんステーション
 - ルート

石樋
二の丸堀の水抜き用の石樋。元禄15年(1702)の修復の際に、木の樋から石の樋にかえた。百間堀となる陸上競技場側にその出口がみえる。



東虎口櫓門
虎口とは、城の出入口のこと。昭和24年(1949)に南櫓と北櫓が、また平成6年(1994)に城門が復元され、かつての東虎口櫓門の姿がよみがえった。



真田石
真田信之が、松代移封の際に父の形見として持ち運ぼうとしたが、不動であったとの伝説をもつ直径3mの大石。この真田石のほか、城内の石垣に使われた石材の大部分は、市街地北方にそびえる太郎山産の緑色凝灰岩を使用している。

上田市立博物館



真田氏をはじめ歴代藩主の資料や上田地方の歴史・民俗・自然資料を収蔵・展示。国の重要文化財「織田信長所用章胴服」「国友藤兵衛作反射望遠鏡」等を所蔵。



上田城櫓(内部)
櫓門、北・南櫓の内部を見学できます。

料	上田市立博物館	一般 300円
金	上田城櫓(内部)	一般 300円
	共通券(博物館、上田城櫓の2館)	一般 500円

※団体・障がい者・学生割引有り
開館時間/9:00~17:00
最終入館時間は16:30です
休館日/水曜日(祝日にあたる場合はその翌日)・祝日の翌日・年末年始(11月中旬~翌3月)
※臨時に閉館・休館の場合あり
TEL/0268-22-1274
博物館HP

上田市観光会館



喫茶コーナーが併設された1階の売店は、上田みやげを多数販売。2階は休憩スペースを設けた観光案内所。

■1階 売店・喫茶
営業時間/9:30~18:00
10:00~17:00(冬期12月~翌2月)
TEL/0268-25-4403
■2階 無料休憩所・観光案内所
営業時間/9:00~18:00
9:00~17:00(冬期12月~翌2月)
TEL/0268-23-5408

※施設の情報は2024年1月現在のものです。